引受保険会社

アクサ生命保険株式会社

redefining / standards

未来円満

保証金額付特別勘定年金特約（定期Ⅱ型）付変額個人年金保険（06）

2012年度

# 特別勘定の現況

（世界分散型３０ＡＬ（５０３））

決算のお知らせ

## ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

ホームページアドレス　http://www.axa.co.jp/life/
お問い合わせ先　0120-375-193
＜受付時間＞　月～金　9:00～19:00
土　9:00～17:00
（日・祝日、年末年始の当社休業日を除く）

**【利用する投資信託の委託会社】　ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社**

**ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社は、米国ステート・ストリート銀行の資産運用部門(SSgA)の東京拠点です。1998年10月1日に業務を開始、投資信託・投資顧問業務を幅広く展開しています。ステート・ストリート銀行は、1792年に米国ボストンに設立された歴史と伝統を有する金融機関であり、卓越した財務内容と高い信用力を有しています。SSgAは、最先端テクノロジーと高度な運用技術を駆使したクオンツ運用に定評があり、特にインデックス運用では世界有数の資産運用会社として評価されています。**

- アクサ生命保険株式会社の「保証金額付特別勘定年金特約（定期Ⅱ型）付変額個人年金保険（06）」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「保証金額付特別勘定年金特約（定期Ⅱ型）付変額個人年金保険（06）」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面（契約概要／注意喚起情報）」、「商品パンフレット」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、ファンドの資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等をしていますので、合計等と合致しないことがあります。

# 保証金額付特別勘定年金特約（定期Ⅱ型）付変額個人年金保険（０６）
# 特別勘定の現況（2012年度）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性･完全性については、これを保証するものではありません。

## 運用環境 ［ 2012年4月～2013年3月 ］

### 【日本株式市場】

日本株式市場は、大きく上昇しました。TOPIX（東証株価指数）は前期末比21．11%上昇の1，034．71ポイント（前期末は854．35ポイント）で終了しました。欧州債務問題の懸念などから下落して始まり、6月にはギリシャの再選挙結果などを受け上昇に転じましたが、揉みあう展開が続きました。11月以降は、衆議院選挙後の新政権による大型景気対策や日銀への金融緩和圧力などから反転し、大幅に上昇しました。1月以降は、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから揉み合う局面もありましたが、政府の大規模な緊急経済対策や円安の進行、日銀正副総裁人事の同意などを受け金融緩和期待が高まったことなどから上昇して、今期を終えました。業種別（東証33業種）では、新政権のデフレ脱却策への期待から「不動産業」（前期末比＋73．42%）が最も上昇した一方、大型増資やボーイング787の運航停止等が嫌気された「空運業」（同▲25．38%）が最も下落しました。

### 【外国株式市場】

米国株式市場は、上昇しました。NYダウは前期末比＋10．34%上昇の14，578．54ドル（前期末は13，212．04ドル）で終了しました。
欧州債務問題の懸念などにより下落した後、9月頃までは追加金融緩和の期待やFOMC(米連邦公開市場委員会)の量的緩和策の決定などから上昇基調で推移しました。11月中旬頃までは、IMF(国際通貨基金)の世界経済見通しの下方修正などにより下落基調で推移しましたが、1月には「財政の崖」問題が回避されたことなどにより上昇し、その後も良好な経済指標などから上昇基調で推移しました。欧州株式市場は、上昇しました。欧州債務問題を巡る進退や良好な経済指標などを背景に、概ね米国株式市場と同様の動きとなりました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比＋11．15%上昇、仏CAC40は同＋8．98%上昇、独DAXは同＋12．21%上昇となりました。

### 【日本債券市場】

日本債券市場は、大幅に金利が低下しました。新発10年国債利回りは0．56%となりました（前期末は0．99%）。
8月に国内消費税増税法案を巡る政局の混乱などから金利は上昇(価格は下落)する局面もありましたが、欧州債務問題などによる世界的なリスク回避姿勢などから金利は低下基調(価格は上昇)で推移しました。12月中旬以降は、大規模な財政出動による国債増発懸念などから金利は上昇に転じましたが、1月以降は金融緩和期待の高まりや、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから、金利は大幅に低下しました。日銀は、政策金利である無担保コール翌日物金利の誘導目標を年0．0%～0．1%程度で推移するよう金融市場調整を行いました。無担保コール（翌日物）は0．1%程度の水準で推移しました。

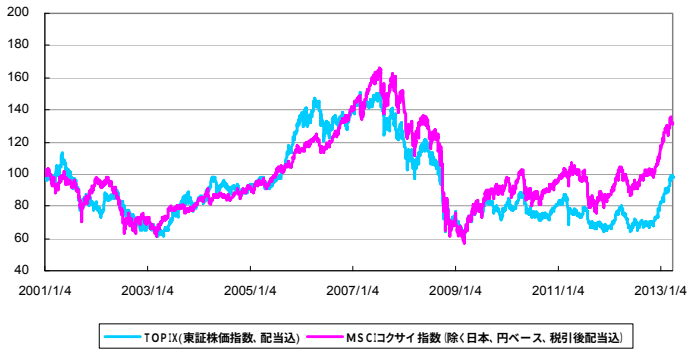
### 【外国債券市場】

米国債券市場は、金利が低下しました。米10年国債利回りは1．85%となりました（前期末は2．21%）。7月にかけて欧州債務問題への懸念などから金利は低下基調(価格は上昇)で推移した後は、良好な経済指標などから金利は上昇(価格は下落)する一方、追加金融緩和観測などから金利は低下するなど、今期後半は揉み合いながらも上昇基調で推移しました。
欧州債券市場は、金利が低下しました。独10年国債利回りは1．29%となりました（前期末は1．79%）。欧州債務問題を巡るECB（欧州中央銀行）やユーロ圏各国当局の政策対応などから、今期を通して金利は揉み合いながら推移しました。FRBは、FF（フェデラル･ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．00%～0．25%を維持しました。ECBは7月に政策金利を0．25%引き下げ、年0．75%としました。

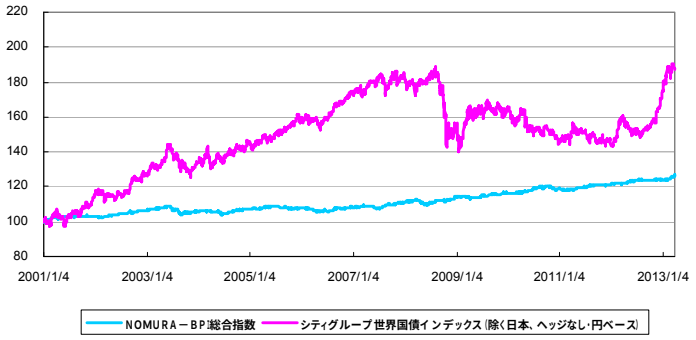
### 【外国為替市場】

外国為替市場は、円高基調で推移した後、今期後半にかけ円安が加速しました。米ドル／円相場は、前期末比11円86銭（14．43%）円安ドル高の1ドル＝94円05銭となりました。今期前半は、欧州債務問題への懸念などから円高基調で推移しました。今期後半は、「財政の崖」問題が回避されたことや、衆議院選挙後の新政権のもとで日銀に対する金融緩和圧力が一段と高まるとの思惑、加えて日銀総裁の早期辞任により金融緩和が前倒しで実施されるとの観測などから円安が加速しました。
ユーロ／円相場は、前期末比10円93銭（9．95%）円安ユーロ高の1ユーロ＝120円73銭となりました。今期前半は、ECBによる政策対応への期待などから円安が進行する局面もありましたが、欧州債務問題への懸念などから円高基調で推移しました。今期後半は、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから円高となる局面もありましたが、ギリシャ支援協議の合意や日銀に対する金融緩和圧力が高まるとの思惑などから円安が加速しました。

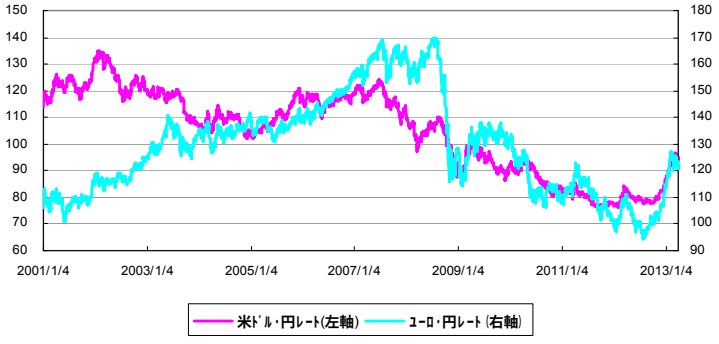
**日本と外国の株式市場の推移**
*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。




**日本と外国の債券市場の推移**
*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。




**外国為替市場の推移**




出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値


【引受保険会社】
**アクサ生命保険株式会社**
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL：0120-375-193
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

# 保証金額付特別勘定年金特約（定期Ⅱ型）付変額個人年金保険（０６）
# 特別勘定の現況（2012年度）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社であるステート･ストリート･グローバル･アドバイザーズ株式会社の裁量の範囲外となります。

## 特別勘定の運用方針および運用状況 [ 2013年3月末日現在 ]

| 特別勘定名 | 特別勘定の運用方針 |
|---|---|
| 世界分散型３０ＡＬ（５０３） | 当特別勘定は、主として国内外の株式および債券を主要投資対象とする投資信託を運用対象としており、次年度も今年度と同様の運用方針で運用します。 |
| **利用する投資信託** | **利用する投資信託の運用方針** |
| ステート･ストリート<br>４資産バランス３０ＶＡ<br>＜適格機関投資家限定＞ | ● 当ファンドは、<br>ステート･ストリート日本株式インデックス･マザーファンド受益証券１５％、<br>ステート･ストリート日本債券インデックス･マザーファンド受益証券３５％、<br>ステート･ストリート外国株式インデックス･オープン･マザーファンド受益証券１５％、<br>ステート･ストリート外国債券インデックス･マザー･ファンド受益証券３５％*<br>を基本配分比率とし、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。<br>＊ 当ファンドは、ステート･ストリート外国債券インデックス･マザー･ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入外貨建資産の３５％のうち２０％部分について、原則として為替ヘッジを行います。<br>● 各受益証券の時価変動などに伴う基本配分比率の変化に関しては、資産ごとに一定の変動幅を設け調整を行います。<br>● 当ファンドの主なリスク<br>･価格変動リスク　･信用リスク　･カントリーリスク　･為替リスク<br>● 受益証券の配分に代えて、トータル･リターン･スワップ取引を利用する場合があります。<br>(詳しくは、P.4をご覧ください) |

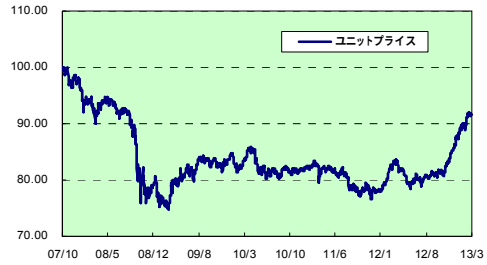
(注) 2013年2月28日より運用方針が変更となり、同時に運用関係費が引き下げとなりました(4、5ページをご覧ください)。

### ■特別勘定の運用コメント （2012年4月1日 - 2013年3月末日）

２０１２年度のユニットプライスの騰落率は、国内株式･外国株式･外国債券の大幅上昇が寄与したことから、＋１０．１６％となりました。
外国株式、国内株式は欧州債務問題の悪化などから前半は下落しましたが、後半以降は世界的な金融緩和の動きや、円安の流れに後押しされ年度末まで上昇基調で推移しました。国内債券は、軟調な経済指標や追加金融緩和策を背景に堅調に推移しました。外国債券は、軟調な経済指標や相対的に安全とみられる独国債が買われたこと、加えて、日本の金融緩和期待で円が主要通貨に対して大幅に下落したことから年度末まで上昇基調で推移しました。

### ■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。




| 特別勘定のユニットプライス | | 騰落率 (%) | |
|---|---|---|---|
| 2013年3月末 | 91.51 | 過去1ヵ月 | 2.12 |
| 2012年12月末 | 85.74 | 過去3ヵ月 | 6.74 |
| 2012年9月末 | 80.88 | 過去6ヵ月 | 13.15 |
| 2012年6月末 | 80.02 | 過去1年 | 10.16 |
| 2012年3月末 | 83.07 | 過去3年 | 7.90 |
| 2011年12月末 | 78.23 | 設定来 | ▲ 8.48 |

・世界分散型３０ＡＬ（５０３）の特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日（２００７年１０月９日）を１００．００として計算しております。
・騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する今月末のユニットプライスの変動率を表しています。

### ■特別勘定資産の内訳

| 項目 | 世界分散型３０ＡＬ（５０３） | |
|---|---|---|
| | 金額 (千円) | 比率 (%) |
| その他有価証券 | 14,907,477 | 99.7 |
| 現預金･その他 | 37,549 | 0.3 |
| 合計 | 14,945,027 | 100.0 |

・特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
・金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しております。

### ■特別勘定資産の運用収支状況

| 項目 | 金額 (千円) |
|---|---|
| 利息配当金収入 | 61,277 |
| 有価証券売却益 | － |
| 有価証券評価益 | 1,678,689 |
| 有価証券償還益 | － |
| 為替差益 | － |
| その他収益 | － |
| 有価証券売却損 | － |
| 有価証券評価損 | － |
| 有価証券償還損 | － |
| 為替差損 | － |
| その他費用及び損失 | 4,600 |
| 収支差計 | 1,735,365 |

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL：0120-375-193
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

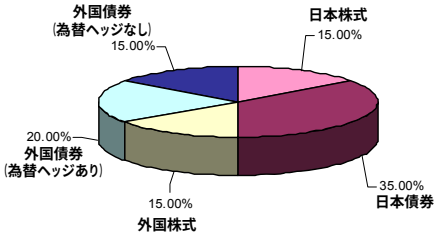
# 保証金額付特別勘定年金特約（定期Ⅱ型）付変額個人年金保険（０６）
# 特別勘定の現況（2012年度）

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社であるステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## ステート・ストリート4資産バランス３０ＶＡ＜適格機関投資家限定＞の運用状況 ［2013年3月末日現在］

### ■ファンドの特色

【基本配分比率】

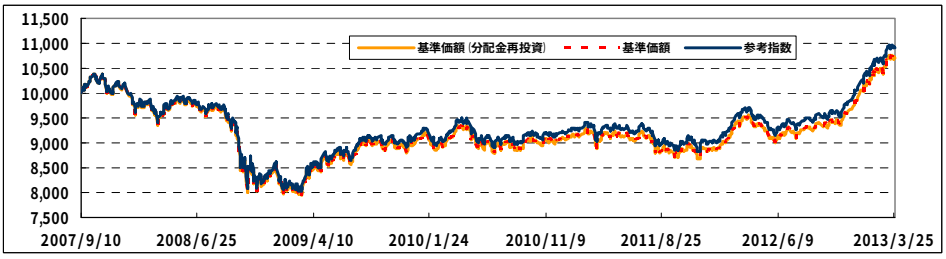



当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行い、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。
当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドは、それぞれ以下のベンチマーク（運用成果を判断するうえで基準とする指数）と連動する投資成果を目標とする運用を行います。
ステート・ストリート日本株式インデックス・マザーファンド受益証券：「ＴＯＰＩＸ（東証株価指数配当込み）」
ステート・ストリート日本債券インデックス・マザーファンド受益証券：「ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ総合指数」
ステート・ストリート外国株式インデックス・オープン・マザーファンド受益証券：「ＭＳＣＩコクサイ・インデックス（円ベース）」
ステート・ストリート外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券：「シティグループ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」*
*当ファンドは、ステート・ストリート外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入外貨建資産の３５％のうち２０％部分について、原則として為替ヘッジを行いますので、当ファンドにおける当該部分のベンチマークは「シティグループ世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）」となります。

**(注)当投資信託の委託会社から運用方針の一部変更の提案を受け、検討の結果、現行の商品性を保持しながらより効率的な運用が実現できると判断し、2013年2月28日より運用方針に以下の内容が追加されました。また、同時に運用関係費が引き下げとなりました(5ページをご覧ください)。**
マザーファンド受益証券の配分に代えて、各マザーファンドを基本配分比率で合成した指数（ただし外国債券の為替ヘッジを行う部分については円ヘッジベース）のリターンと短期金利レートの金利を一定の条件のもとに交換するトータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。

### ■基準価額の推移

※ ここでは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額の推移等を記載しております。特別勘定のユニットプライスは、ファンドの基準価額とは異なります。




- グラフは、ステート・ストリート4資産バランス３０ＶＡ＜適格機関投資家限定＞の設定日（２００７年９月１０日）を１０，０００として指数化しています。
- 基準価額および基準価額（分配金再投資）は、信託報酬（純資産総額に対し、年率０．１５７５％程度（税抜０．１５％程度））控除後の値です。
（信託報酬は２０１３年２月２８日より変更（引下げ）となりました。変更前：年率０．２６５％程度（税抜０．２５％程度））
- 基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
- 参考指数は、ＴＯＰＩＸ（東証株価指数配当込み）１５％、ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ総合指数３５％、ＭＳＣＩコクサイ・インデックス（円ベース）１５％、シティグループ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）１５％、およびシティグループ世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）２０％で組み合わせた合成指数です。

### ■概況

| | 2013年3月29日 | 前月末 | 前月末比 |
|---|---|---|---|
| 基準価額 | 10,702 円 | 10,459 円 | 243 円 |
| 純資産総額（百万円） | 14,908 | 14,781 | 127 |

| | 基準価額 | 日付 |
|---|---|---|
| 設定来高値 | 10,770 円 | 2013年3月21日 |
| 設定来安値 | 7,954 円 | 2009年3月10日 |

### ■騰落率

| | 過去1ヵ月 | 過去3ヵ月 | 過去6ヵ月 | 過去1年 | 過去3年 | 設定来 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ファンド | 2.32% | 7.36% | 14.51% | 12.76% | 15.72% | 7.02% |
| 参考指数 | 2.34% | 7.39% | 14.60% | 13.01% | 16.56% | 9.16% |
| 差 | ▲0.02% | ▲0.03% | ▲0.09% | ▲0.26% | ▲0.84% | ▲2.14% |

- ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しております。
また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

- 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

### ■資産構成

| | 基本配分比率 | ファンドの資産構成 |
|---|---|---|
| 日本株式 | 15.00% | 15.19% |
| 日本債券 | 35.00% | 35.09% |
| 外国株式 | 15.00% | 15.13% |
| 外国債券（為替ヘッジあり） | 20.00% | 19.80% |
| 外国債券（為替ヘッジなし） | 15.00% | 15.08% |
| 短期金融資産 | 0.00% | ▲0.29% |
| 合計 | 100.00% | 100.00% |

- ファンドの資産構成は、純資産総額に対する比率となります。
- 計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「短期金融資産」の値がマイナスで表示されることがあります。
- ＲＥＩＴの組み入れがある場合は、ＲＥＩＴは株式に含めて表示しています。

- 下記比率は、純資産総額に対する国別及び通貨別の比率となります。

### ■組入上位5カ国

| 国名 | 比率 |
|---|---|
| 日本 | 50.27% |
| アメリカ | 22.88% |
| フランス | 4.07% |
| イギリス | 4.03% |
| ドイツ | 3.63% |

### ■組入上位5通貨

| 通貨 | 比率 |
|---|---|
| 円 | 70.07% |
| 米ドル | 14.54% |
| ユーロ | 8.03% |
| ポンド | 2.52% |
| 加ドル | 1.12% |

- 上記比率は、為替ヘッジ後の比率となります。


【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL：0120-375-193
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

# 保証金額付特別勘定年金特約（定期Ⅱ型）付変額個人年金保険（０６）のリスク及び諸費用について

**【投資リスクについて】**

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの変額個人年金保険です。
特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して国内外の株式・公社債等で行なっており、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。

**【諸費用について】**

ご契約者等にご負担いただくこの保険の費用は、次のとおりです。

**<積立期間中および保証金額付特別勘定年金（定期）支払期間中にかかる費用>**

| 項目 | | 費用 | ご負担いただく時期 |
|---|---|---|---|
| 契約初期費用 | ご契約の締結等に必要な費用 | 一時払保険料に対して<br>５．０％ | 特別勘定に繰り入れる際に、一時払保険料から控除します。 |
| 保険契約管理費 | 支払年金累計金額と死亡一時金額の合計金額の最低保証、死亡給付金額の最低保証、災害死亡給付金額のお支払い、ならびに、ご契約の維持等に必要な費用 | 特別勘定の積立金額に対して<br>年率２．３％ | 毎日、特別勘定の積立金額から控除します。 |
| 運用関係費<br>（注） | 特別勘定の運用等に必要な費用 | 投資信託の純資産額に対して<br>年率０．１５７５％程度<br>（税抜０．１５％程度）＊ | 特別勘定にて利用する投資信託において、毎日、投資信託の純資産額から控除します。 |

＊ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

＊ 運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

(注) 2013年2月28日より運用方針が変更となり、運用関係費は年率0.1575%程度(税抜：0.15%程度)に変更（引下げ）となりました。
(4ページをご覧ください。変更前：年率0.2625%程度（税抜0.25%程度）)

**<年金の種類の変更またはすえ置期間付年金への移行により１０年保証期間付終身年金または確定年金を選択した場合の年金支払期間中にかかる費用>**

＊「年金払特約（06）」による年金の支払を行なう場合も同様です。

| 項目 | | 費用 | ご負担いただく時期 |
|---|---|---|---|
| 年金管理費 | 年金のお支払いや管理等に必要な費用 | 年金額に対して<br>１．０％ | 年金支払日に責任準備金から控除します。 |

＊ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

この商品にかかわる費用の合計額は「契約初期費用」、「保険契約管理費」、「運用関係費」の合計額となります。
年金の種類の変更またはすえ置期間付年金への移行等をご選択の場合、他に「年金管理費」がかかります。

**【その他の留意事項について】**

**■受取総額保証金額（定期型）**

受取総額保証金額の最低保証は、据置期間（5年～17年）と特別勘定年金受取期間（3年～15年）の合計期間が20年である場合に限られます。積立期間中にご契約を解約される場合、もしくは年金受取期間中に積立金額を一括でお受け取りいただく場合には、お受け取りになる金額が一時払保険料を下回る場合があります。

**【引受保険会社】**
**アクサ生命保険株式会社**
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL：0120-375-193
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/